西東京市市民協働推進センター
平成 21（2009）年度第 6 回　運営委員会会議録（確定稿）

■開催日時：平成 21 年 11 月 17 日（火）　午後 7 時～9 時
■開催会場：イングビル 3 階　第 1 会議室
■出席委員：有賀委員、小川委員、熊田委員、小林委員、坂口委員、中曽根委員、橋本委員、原委員、山辺委員
＜以上 9 名、五十音順＞
■事 務 局：鈴木センター長、中澤主事、佐藤

○委員長が、柳澤委員の転勤後は小川店長に運営委員を引き継いでいただけることを報告。小川委員は委嘱状を受け、あいさつした。

1．報 告 事 項

委員長：業務報告をお願いする。

事務局：10 月はママのトークサロンを 5 日に、市民活動・コミュニティビジネス講座を 18 日と 25 日に実施した。

10 月の協働推進センターの団体登録は、ダンスサークル M's POWER & K's POWER、西東京市福祉推進協議会とフロムジャパン多摩の 3 団体であった。

相談の状況では、助成金に関する相談が 2 件あった。1 件は助成金申請書にゆめこらぼの推薦コメントを作成した。他の 1 件は申請書作成の相談に応じた。

委員長：11 月以降の実施事業について説明をお願いする。

事務局：第 3 回 NPO・市民活動ネットワークを 11 月 20 日 19 時からイングビルで開催予定。今回から NPO 法人が参加しやすいように、名称を「NPO・市民活動ネットワーク懇談会」に変更した。ゆめこらぼ登録団体の「環境まちづくり NPO エコメッセ西東京」に、11 月 28 日に上映するフィリピンのストリートチルドレンを扱ったドキュメンタリー映画に対する熱い思いを語ってもらう。映画を見るプロセスを通じて市民活動団体や人と人とのつながりの場を提供できるのではと考えている。映画は小学生、中学生、高校生は無料。また、西東京市合併 10 周年の映画を撮っている市民の方に途中経過を報告していただき、取材したビデオを見ながら参加団体や地域が抱える課題などを話し合えればと思っている。今回も名刺交換会をする予定。

2010 年 1 月の大名刺交換会の対象には市民活動団体の方々と企業関係者を予定している。市民活動団体と企業が出会う場を作りたい。チラシはこれから作成する。場所は未定だが、50 人程度入れる会場を考えている。

トークサロンは「市民活動について大学生と意見交換をしませんか」のテーマで 11 月 26 日 19 時から 20 時 30 分まで行う。熊田委員長の紹介で武蔵野大学のボランティア仲介部の学生に来ていただき、ボランティア仲介部がどんな活動をしているかを話してもらう。市民活動をしている人と大学生の巻き込み方について話し合いたい。またそこで知り合うことによって市民団体の活動に武蔵野大学の学生が参加するきっかけにもなればと考えている。今回ゆめこらぼ登録団体の「フロムジャパン多摩」が参加する。和風小物や着物のリサイクル品を外国にもっていく活動をして、学生とのつながりを求めている。

トークサロンは、これまで吉田委員、宮﨑委員そして今回の武蔵野大学の学生と続いた。2010 年 1 月は山辺委員をゲストに予定している。国際交流、多文化共生について話し合いができればと思っている。3 月は FM 西東京の有賀委員に来ていただき、地域における情報発信や地域の人たちのつながりについて話し合いを考えている。これから 2 人と打ち合わせをしていく。

第 2 回企業懇談会 11 月 25 日 15 時から 17 時まで、ゆめこらぼのサロンコーナで開催。そこでは企業の紹介、会社として地域貢献の考えや、地域の活性化や地域の課題解決について話し合いたいと考えている。まだ 1 回の集まりで、具体的な取り組みの意見が出るところまではいっていない。

「協働講座」は来年の 2 月頃に開催を考えている。講師は安藤雄太さんを予定している。安藤さんの話にプラスして、団体から事例を紹介してもらおうと考えている。

委員長：11 月以降の事業説明で確認または質問はあるか。

委員長：11 月 26 日のトークサロンに参加する学生は 3 名とのことだが。

事務局：ボランティア活動に実績のある学生に声をかけた。
委員長：話ができる学生である。
委　員：ボランティア仲介部は大学の中にあるのか。
委員長：社会福祉学科の中に学生が自主的に活動する場として学内学会がある。
ボランティア仲介部はその中の部活動の一つで、ボランティアセンターの名称は誤解を招くので、ボランティア仲介部となった。行っていることは、学内の福祉活動のボランティア情報を集めて発信している。トークサロンに参加するメンバーは、ボランティア・市民活動センターの「ボランティアのつどい」の実行委員もしており、活発な議論が期待できると思う。
委　員：仲介部長も学生か。
委員長：そのとおり。私が顧問を委嘱されているが、代表は学生で、顧問は基本的に持ち回り。
委員長：他のところで質問はあるか。
委　員：今後のトークサロンについてだが、ここの運営委員がトークサロンに出ることについて確認をしておきたい。
委員長：今までの取り組みは、委員個々の社会資源を良い形で有効に使うという考えだ。しかし、そもそもの考え方としても疑問があるので議論しておく必要がある。そしてそれを共有化しておきたい。まず事務局の考えを聞かせてほしい。
事務局：今までは、運営委員の皆さんの協力をいただいてトークサロンを開催してきた。
トークサロンの元々の発想が、地域の色々なネタ、ニーズ、問題といった旬のものを切り取ってそこに市民の方に集まってもらい、地域や活動に関心を持ってもらい、一番ホットな話題に対して身近に集まって話せる場と考えていた。担当課との打ち合わせの過程でより一般市民が興味関心を持ち、集まっていただくことができるようにするため、幅広い活動をされている運営委員の協力を得たらどうかということになり、本年は運営委員の皆様にご協力をいただいた。次年度以降も内容により、運営委員の皆様に同じように力添えを頂く場面もあるかと思うが、色々な方の協力を得ていき、当初の目的を達成していきたい。
委員長：確かに、運営委員がかかわる場面が多いように思う。
委　員：ゆめこらぼがうまく回っていくために、協力するのはやぶさかではない。ただ、内輪だけでやっていてはいけないと思って発言した。広い目で人材を選んだ方が良いと思う。
委員長：他に意見はあるか。
事務局：今年度のトークサロンは、運営委員の皆様にお力添えをいただき実施をしているが、運営委員の皆様が多岐に渡る分野から委員になっていただいているので、多様なテーマでトークサロンを実施することができている。今年度は、子育て中の母親、環境、学生とのコラボ、FM 放送を用いた情報発信、多文化の共生などをテーマとしたが、これらは取り組みたい分野であった。運営委員しか頼む当てがないわけではなく、テーマを前提としてご協力をお願いした。
今後は全体の状況をみながら、幅広くいろいろな分野でご活躍の方に協力をお願いしていくつもりだが、テーマによっては今後も運営委員の皆様に引き続きご依頼をすることもある。
委員長：運営委員の皆さんは地域の中で活躍している人が多い。内輪だけでやっている印象があると引いてしまう人がいるだろう。運営委員のもっている人脈なり、ネットワークを使うのも戦略だと思うが、バランスが大事だ。適材適所で運営委員をメーンにしつつも、外の協力を得ることを検討してほしい。
全体として１年間の振り返りが必要で、その中で協働推進センターの 1 年間の成果と課題をみて、次年度の戦略を議論していきたい。

２．審　議　事　項

○前回の第 5 回運営委員会会議録（未定稿）に訂正部分は無く、未定稿を確定稿とした。

３．協　議　事　項

委員長：2010 年度西東京市市民協働推進センターの予算および事業について説明していただきたい。
事務局：事業計画（案）は前回から若干変更になった。人材養成・研修事業のところの「市民活動・コミュニティビジネス講座」は、コミュニティビジネスに関心のある方に参加していただき全 4 回を終了した。

講座終了で終わりでなく、参加者同士が交流できるメーリングリストを準備している。メーリングリストよってこんなことを始めたとかブログなど参加者同士の情報交換や相談をする良い関係ができればと考えている。
先日の「会計講座の基礎編」は定員の 20 名に対して 39 名の応募があった。最終的に 37 名が参加した。NPO の会計に対する関心が高いことを感じた。参加者の中には、NPO 以外の方もいたし、NPO の方は推測だが基礎から会計を学びたいというニーズに合ったと考えている。アンケートでは、中級編の開催を希望する方が多かったので開催をしていきたい。
委員長：質問なり意見はあるか。
委員長：前回から変わった点は、今説明があった内容でよいか。
事務局：補足で説明する。経費積算では本年度と比較して増えているところがある。
「ホームページ」はホームページ構築に関わる費用、「人材バンクによる人材情報の提供の取り組み」はデータベースを構築するための費用だ。「専門相談会」は、委員の皆さんから会計研修会と専門相談会が分かりにくいと指摘を受けた。今年度は当初、専門相談会を予定していたが、ニーズがどのくらいあるか分からないこともあり、会計研修会を講座形式で実施した。研修会のアンケート結果で、専門相談会へのニーズがあることが分かった。来年度は会計研修会が基礎編、中級編を講座形式で行い、加えて専門相談会を開催することで予算を組んでいる。「情報ボックス設置」は、前回の運営委員会の際に担当課との調整が間に合えば計上することにしていた。経費は箱そのものの本体価格のみ。情報ボックスは、市庁舎、公民館に置きたいと考えているが、実際に置けるかどうかは、担当課が窓口になって市の内部での調整が必要となるのでまだ分からない。一番良いやり方として紙ベースで行うのであれば、各公民館から交換便で定期的に協働センターに回収する考えはあるが、実現に向けては何とも言えない。「行政職員と市民活動団体の懇談会」は、協働を進める上で、協働推進センターの大きな取り組みだ。来年 2 月に安藤さんを招いて協働のシンポジウムを開く。
今年度は下地作りで、行政の立場、市民活動団体の立場、それぞれの立場を理解して一緒に手が組めるための地ならしと考えている。「市民活動団体状況調査」、「企業の社会貢献活動調査」は、ボランティア・市民活動センターで一度行っているが、その後調査が途絶えているので協働推進センターでやることで計上している。これは協働推進センターが持っていた方がよい情報である。
委員長：何か質問はあるか。
委員長：ホームページの予算はどのような状況になっているか。
事務局：必要性をどれだけ伝えることができるかが大きなポイントと考えている。
委員長：予算が取れればよいが、予算が取れなかった場合にどうするか。結果を見てから考えてもよいと思うが、感触は五分五分か。
事務局：五分五分と考えている。予算的にホームページの分はそのまませり出す形なので、増額になると厳しいかもしれない。
委員長：取れなかったときに、どういう電子メディアを使いながら情報発信していくかを戦略的に考える必要がある。結果はいつごろ分かるか。
事務局：年明け頃ではないかと思う。
委員長：予算が取れた、取れないで大幅に考え方が変わる。次の一手を考えながら進めた方がよい。予算が取れた時に何をするかが重要。ホームページの議論はあまりしていないので検討する必要がある。
委員長：他に意見、質問はあるか。
委　員：行政職員と市民活動団体の懇談会は、ぜひやってほしい。どのくらいの頻度をイメージしているのか。
事務局：下地が全くない現状で、懇談会をやるには内部調整がかなり必要になると担当の職員はみている。
下地作りとして、2 月の協働講座が一つの仕掛けになっている。頻度についてはなんとも言えない。
委　員：予算付けはどのようにしているのか。
事務局：講師を招いての懇談会は 1 回もしくは 2 回を考えている。行政職員と市民活動団体との懇談会を 1 回やって、そこではずみがつけば懇談会を定期的にやっていきたい。
委　員：実際に協働事業をやっている行政側と NPO なり市民活動団体が両方出てその事業についてプレゼンする。それを皆で色々議論する。事例報告をするような形で、トークサロンでもよいくらいのイメージで軽く、何回もやる方がよい。シンポジウムで偉い先生を呼んでコーディネーターがいて、というよりは、余り構えないで行政職員と市民活動団体が気軽に出会える場を作るくらいのイメージでよい。
事務局：行政職員の中にも協働に前向きの人がいる。その人たちに先頭に立ってもらい広めていきたい。
委　員：例えば東大農場のことに絞って成功事例としてやったらどうか。西東京市なので一般論でなく具体的

な事例になる。また介護のテーマでやってもおもしろい。
事務局：一点説明を追加する。経費積算で「ひまわりプロジェクト in 東大農場」が予算項目に入っていない。運営委員会が指摘した通り、センターは中間支援に徹することを提案した。
委員長：よその地域の先行事例から学ぶこともよいが、一方で、西東京市の中でしっかりと取り組みをしている事例を検証し、足元をみる作業も大事。どういう形でこの懇談会をセンターとしてプログラムしていくか。よそからいろいろな人を呼んでお祭り的な形でするよりも、地元重視で何ができるか、今まで何ができたかを話し合ってみることが大事である。
委員長：他に意見、質問はあるか。
委　員：今 NPO の新しい会計基準を作っている。全国の NPO を支援する団体、会計の専門家、NPO の会計を専門に支援している団体等が集まって協議をしている。先週土曜日に会計基準案が出た。これからパブリックコメントを求める。今年度中には、NPO が作った会計基準が出る。それを今度、行政側と結び合わせて、どのように法律に反映させていくか。来年度はその動きが出てくる。
ホットなイシューになる会計基準を取り込むのもよい。例えば、ボランティア活動、物品の寄付などを財務諸表にどのように反映させていくか等々、様々な論点で議論している。
委員長：地域で先駆的に取り組んでいる団体とはコラボし、ホットなイシューに関することはできるだけやった方がよい。限られたお金の中で切り盛りは大変だが、検討を願いたい。
委　員：話は前に戻るが、行政職員との懇談会の際には、行政職員が協働を理解し、前向きに取り組みを行ってもらえるような工夫をする必要がある。
事務局：その通り。ご尽力をお願いしたい。
委員長：行政との関係をどう作っていくかが焦点。今後継続的に検討する必要がある。運営委員も知恵を出していく。
委　員：提案がある。アクションリサーチ的に活動団体がやっている事業を運営委員が見にいく。そこで現場の声を行政にフィードバックする。
委員長：検討をお願いする。
委員長：添付の人材バンクの資料は何か。
事務局：ホームページを作成するイメージとして、参考までに他市の人材バンクのホームページのコピーを添付した。
委　員：ホームページは、交流型の SNS か、発信型のホームページか、どちらを目指すか比較すべきだ。どちらもテンプレートがある。個人的には、発信型のホームページよりも SNS のような交流型が向いていると考える。人材バンク的なものは SNS のテンプレートで対応できる。
事務局：ボランティア・市民活動センターのホームページを改修する際、他市のホームページを参考にした。情報提供のしやすさや、人材バンクがデータベースで組まれていて使いやすいと判断した。ホームページの見積もりは、情報発信型をイメージしている。SNS も有効だと思う。予算が通らなかった時は次の手を考える。
委員長：ホームページは顔になるところ。データとして何を載せ、どうするかは大事なところ。予算の結果を含めて大きなテーマとして取り上げていきたい。できれば年度内に検討する機会をお願いする。
委　員：他のプロジェクトで調査した報告書が公開されていれば、それをベースにやってみたらよい。
事務局：報告書の形にはなっていない。
委　員：企画書が無いと何をやりたいのか分からないし判断ができない。三鷹に総務省が後押ししている地域 SNS がある。一つの例としてポキネットが隣の市にある。どういう内容で見積もりされているのか分からない。
事務局：当該のホームページを業者にみてもらい、個々の部分を取り込んだサイト構築を見積もった。
委　員：業者は企業か。
事務局：NPO 法人に依頼した。
委　員：第１回市民活動ネットワークに参加した専門の方でボランティアに関わろうという意志がある人がいた。web サイトは構築後もシステムの更新が要る。業者的に作って終わりではなく、地域の協力者を募ったりして、関係者を巻き込んだらよい。
委　員：昔と違って素人でもできるような技術になってきた。幅広く知恵を借りたらよい。
委員長：こちらも検討する機会を作って改めてどうしていくか考えていく。
次年度のセンターの事業計画と予算はこれで進めていく。細かい内容については個別に検討する。

４．そ の 他

１）次回運営委員会日程について

委員長：次回は 12 月 15 日（火）の 19 時からイングビルで開催する。

委　員：１度ゆめこらぼ内でやったらどうか。ゆめこらぼの使い勝手とかを皆で検証してはどうか。

事務局：ゆめこらぼで開催できるか担当課と調整してから連絡する。

２）来年 2 月の運営委員会の日程変更

事務局：当初の 2 月 16 日を 2 月 23 日に変更する。

以上をもって散会した。